

令和5年度第3回北海道社会教育委員の会議兼第16期北海道生涯学習審議会議事録

○日時

令和6年(2024年)1月30日(火) 10:00～16:00

○会場

道民活動センター(かでの2・7) 8階 北海道立生涯学習推進センター

○出席者

【委員】

吉岡議長兼会長、白石副議長兼副会長、大原委員、岡部委員、轡田委員、杉澤委員、田丸委員、平田委員、松井委員、三石委員、宮田委員、遊佐委員、渡邊委員

【事務局】

村上局長、伊藤課長、吉田課長補佐、石川係長、南社会教育主事、齋藤主事

○次第

- 1 開 会
- 2 挨拶
- 3 議 事
 - (1) 令和5年度第2回会議議事録(案)について
 - (2) 審議のまとめ案について
 - (3) その他
- 4 その他
 - (1) 令和6年度社会教育関係団体補助金について
 - (2) 文部科学大臣表彰選考について
 - (3) その他今後のスケジュールについて
- 5 閉 会

(吉田課長補佐)

本日は、お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。Zoomで御参加の皆様につきましては、接続障害が発生する場合がございますので、その場合にはお手数ですが、再接続するなどの御対応をお願いいたします。

本日は委員15名中13名が出席されておりますので、「北海道社会教育委員の会議運営に関する規定第5条」及び「北海道生涯学習審議会条例第5条」により、本会議が成立していることを御報告いたします。

また、本会議は北海道行政基本条例第5条第2項並びに北海道情報公開条例第26条の規定により原則公開となっておりますが、次第の4その他の(1)補助金については告示前であること、(2)表彰選考につきましては、選考事務に支障が生じる恐れがあることから、非公開とさせていただきます。

本日は、一般の傍聴者はありませんが、北海道通信社から取材の申込があり、許可しておりますので、よろしくをお願いいたします。

続きまして、配布資料ですが、開催要項のとおり資料1から資料7となっておりますので、お手元に御用意をお願いいたします。それから、追加で「令和5年度地域生涯学習活動実践交流セミナー」の開催要項をお配りしております。

それでは、ただ今から、令和5年度第3回北海道社会教育委員の会議兼第16期北海道生涯学習審議会を開催いたします。

開会に当たりまして、生涯学習推進局長 村上 由佳より御挨拶申し上げます。

(村上生涯学習推進局長)

皆様、おはようございます。画像の関係で着席して御挨拶させていただきます。

令和5年度第3回北海道社会教育委員の会議の開会に当たりまして、御挨拶を申し上げます。

委員の皆様におかれましては、昨年度から計5回の会議等におきまして、多様な御意見、貴重な実践事例の御紹介をいただき、誠にありがとうございました。

おかげさまで、「全ての人の可能性を引き出し、ウェルビーイングを実現する生涯学習・社会教育に向けて、北海道の社会教育施設が果たすべき役割」について、審議が大変深まっていると承知をしております。

令和5年11月末現在で、本道の人口が510万人を割り込んだという新聞報道が、1月上旬にありましたが、今後も急激に減少することが見込まれており、地域コミュニティの衰退、つながりの希薄化が課題となっております。

この度のまとめが、本道の社会教育施設の役割の明確化や機能強化につながり、「人づくり、つながりづくり、地域づくり」の充実が図られ、地域コミュニティの基盤整備、道民の皆様のウェルビーイングの実現に資するものと期待をしております。

今期の社会教育委員の会議は、本日が最後になるかと思いますが、まとめの充実に向けまして、それぞれのお立場から、忌憚のない御意見・御提言を賜りますよう、お願いを申し上げます。

結びになりますが、お忙しい中、御提言、御指導を賜りました吉岡議長様をはじめまして、各委員の皆様方に心からお礼を申し上げ、開会に当たっての挨拶といたします。本日はどうぞよろしくをお願いいたします。

(吉田課長補佐)

村上局長につきましては、用務の都合により、これで退席させていただきます。それでは、ここからの進行につきましては、吉岡議長兼会長にお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

(吉岡議長兼会長)

本会議は、本日が最終となりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

始めに、議事の(1)令和5年度第2回議事録(案)について事務局から説明をお願いいたします。

(石川係長)

資料1を御覧ください。令和5年度第2回議事録(案)につきましては、皆様にお送りしまして、御確認・修正をいただいておりますので、内容に御異議がなければ、この案のとおり確定したいと思いますが、いかがでしょうか。

(吉岡議長兼会長)

よろしいでしょうか。それでは令和5年度第2回議事録をこれで確定したいと思います。ありがとうございました。次に議事の(2)審議のまとめ案について、事務局から説明をお願いいたします。

(吉田課長補佐)

審議のまとめ案について説明いたします。

委員の皆様には、年末年始のお忙しい中、御覧いただき、御確認いただきましてありがとうございました。委員の皆様からいただきました御意見を参考としまして、修正案を作成いたしましたので、資料2【審議のまとめ案】新旧対照表を御覧ください。

本文については、渡邊委員の方からいくつか御指摘がありまして、「その部分だけが厳しい表現なので、軟らかい表現が望ましいのではないか」ということで5ページのところを修正しております。それから、「文言を追加するなどして分かりやすい表現等にしたいのではないか」ということで、数点修正しております。それから、「文末がそろっていない箇所があるので、統一的な文末が望ましいのではないか」、「趣旨が似通っている文章が近くにあるので、まとめたり、削除した方が分かりやすいのではないか」ということで、この点については数点修正しております。こういった趣旨で御意見をいただきました。このことにつきまして、新旧対照表のとおり修正したいと考えたところでございます。

これに追加しまして、渡邊委員の役職に一部誤りがありまして、総合学科が抜けていましたので追加したいと思います。

それともう一点ですが、前回の会議で皆様から御指摘を受けました注釈につきましては、一度見ていただいてから何回か一部修正がありました。新旧対照表までは作成しておりませんが、修正がありましたことを御報告いたします。以上でございます。

(吉岡議長兼会長)

ただ今、まとめ案について説明をいただきましたけれども、まず渡邊委員から、補足や修正案についての御意見などがあればお願いしたいのですが。

(渡邊委員)

たくさん出してしまいましたが、修正いただきましたので、ありがとうございます。大丈夫です。

(吉岡議長兼会長)

それでは、他に御意見のある方、挙手をお願いいたします。今回のまとめ案について、最後の機会でございますが、いかがでしょうか。よろしいですか。それでは大きな修正がないということで、まとめを確定したいと思います。

(渡邊委員)

あえて発言させていただいてよろしいでしょうか。実は私は一点気になっているところがあって、14ページの北海道教育委員会の役割ということで、二つ目の○の「連携の促進」です。そこに「社会教育と学校教育の連携を推進する」とありますが、連携の促進の中に連携を推進するというのは、具体が全くないので、ここはこのような形で推進するとか、何か観点をもう少し書いた方が分かりやすい、実効性があるかなと思いましたが、これは検討の余地はありますか。

(吉田課長補佐)

今、お話を伺って、例えばコミュニティ・スクールだとか、そういったところの連携を深めるというような表現が入ると具体的になるかなと思いましたが。

(渡邊委員)

そういった表現を加えると分かりやすいですね。

(吉岡議長兼会長)

連携と言っても幅広ですね。今言ったような取組もありますが、社会教育と学校教育の連携の具体ということで、他にありますか。

(白石副議長兼副会長)

連携の推進ですが、具体的にコミュニティ・スクールって言われましたけれども、コミュニティ・スクールをやるように促していくのか、コミュニティ・スクールがやりやすいように、何かをしているのかとか、具体的にコミュニティ・スクールについて、何が教育委員会の役割で、何が学校教育と社会教育の役割なのかということを知りたいなと思いましたが。

(吉岡議長兼会長)

これは大きなテーマになりますよね。

(轡田委員)

私は、実はいつも社会教育委員としてCSにも地学連携にも携わっていますが、連携は難しいなと思っていました。その場その場では言わないですけれども、どういう風に自分の区切りをつけていけば良いのかとか、教育委員会もそうなのですが、どういう風に市町村で進めていけば良いのか、自分の中でも葛藤がありました。それをどこに自分の気持ちを持ち出せば良いのかなという部分では、白石委員の仰るようにどう進めば良いのかを模索しております。

(吉岡議長兼会長)

今のことに関連して何かありますでしょうか。確かに連携の在り方というのは、具体的に示すことは難しいので、今後、考えていかなければならないかもしれないですね。

(白石副議長兼副会長)

連携しましょうと言われて名刺交換をした方と、連携した例はないのです。よくよく考えると、連携というのは、お互いにやっていることとかを、コミュニケーションで理解した上で、同じ目標があるとか、同じ重なる部分がある時に、協力する関係を作ることなので、本当はすごく時間がかかることなのかなと思うのですね。連携という二文字には深い意味がある気がします。

(吉岡議長兼会長)

連携の推進という言葉ももちろん大事ですが、その在り方について、もう少し深めていくというところで、北海道教育委員会の役割を果たしていくという、そんなニュアンスになれば良いのではないのでしょうか。

(吉田課長補佐)

最後(の会議)なので、今、私が思いついた文言を言ってもよろしいでしょうか。まとめの前段の方にも記載されているのですが、授業等での社会教育施設の活用ですとか、例えばそういう連携、それからコミュニティ・スクールを通して学校と地域の繋がりを深めるとかという文言を、私は、今、思い浮かべたのですけれども、いかがでしょうか。イメージと合うでしょうか。

(吉岡議長兼会長)

学校教育からの視点が強すぎるので、社会教育側からも一つ二つほしいという印象を受けました。今回は施設に着目しながらというようなテーマでしたので、社会教育施設を学校の授業で活用していくこともあるし、逆に社会教育としても、学校という施設を活用することが高まるというようなイメージでも良いかもしれません。

(吉田課長補佐)

抽象的に聞こえるかもしれませんが、施設の機能を生かして学校を支援する、例えば図書館であれば、すでにやっているかもしれませんが、読み聞かせの団体が学校に入るとか、出前授業で学校に入るとかだと、学校教育のイメージが強すぎますか。

(吉岡議長兼会長)

学校教育と社会教育の連携を推進するということは、学校教育に対して社会教育がバックアップするというイメージの一文になっていると思います。

(渡邊委員)

他の書き方に比べて、余りここだけが具体的すぎると、他とのバランスが悪くなると思います。この「北海道教育委員会の役割」は、結構大きな観点で書いていると思います。具体的に書いているのは、「研修機会の提供」のところぐらいで、余り具体的過ぎると、他のところを修正していかなければならなくなります。だから、さっき話していた、例えば社会教育施設の活用とかコミュニティ・スクールの推進程度なのかなという気がします。もっと書いてしまうと、他のところにも影響して、同じレベルに書き直さなければならないと思いますが、いかがでしょうか。

(吉岡議長兼会長)

連携を推進する、その在り方を検討するというようなニュアンスの、さらっとした大きな書き方が収まりが良いのかもしれないですね。

(岡部委員)

実は、学社連携とか学社協働という四字熟語は、もう何十年も前から言われていて、でも、実際に何がどう取り組まれているのかという意味からいくと、そうでもないというのが実態なのです。

研修機会を提供するということは具体的ですよね。でも、社会教育と学校教育の連携、いわゆる学社連携を進めていくということは、永遠のテーマに近いところがあると思います。私はここに触れる必要があるのかなと思いますし、触れる必要があるとすれば、議長が仰ったように、その在り方を今後も引き続き模索していただくか、それぐらいでないと、ここだけに、ものすごく道教委にしてもハードルの高い大目標のようなものが、途中で挟まってくることになるので、少し書きぶりは、見直した方がいいかなと思いました。

(吉田課長補佐)

一度文章を作成して、もう一度皆さんに見ていただくか、議長・副議長に見ていただくかして確認していただこうと思いますが、いかがでしょうか。

(吉岡議長兼会長)

どうでしょうか。皆さんで最終確認をしていただきますか。それとも私たちにお任せいただけますか。

(轡田委員)

私としては、今、大体のことを確認しましたので、よろしければお二人（議長・副議長）に確認をしていただければと思います。

(吉岡議長兼会長)

承知いたしました。それでは、余りここだけを深く書いてしまうとバランスがとれなくなるので、少し大きな枠組みで付け足せる文章があれば事務局と相談して、最終的には私と白石副議長で判断をさせていただくこととしたいと思います。他に御意見はございませんか。オンラインの皆様もよろしいですね。ありがとうございます。

(吉岡議長兼会長)

続いて、議題の(3)ですね、動画配信について、事務局から説明をお願いしたいと思います。

(吉田課長補佐)

皆さんから前回御提言をいただいております動画配信につきまして、案を説明したいと思います。

資料の4と5になります。4が全体と進行で、5がテロップの形で作ってみました。資料4にありますとおり、現状、課題、これまでの会議の状況を紹介したいと考えております。吉岡議長に書いていただいた「はじめに」の部分を一部抜粋しまして、話していただいて、その画面に資料5のテロップを流す形を考えておりました。全体で2分程度を考えております。

初めての試みですので、皆様から御意見をいただきまして、取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

(吉岡議長兼会長)

今、動画作成について、説明をいただきましたけれども、御意見のある方は挙手をお願いしたいと思います。三石委員、いかがでしょうか。

(三石委員)

これまでの会議の中で、動画などで報告するのが良いのではないかという意見を出させていただきましたが、この動画案については、どういう方を対象に作成されたのかを、今一度確認させていただきたいのですが。

(吉田課長補佐)

主たるターゲットは、やはり市町村教育委員会の方、それから社会教育関係団体の方になると思います。それから社会教育施設に関係している方が7・8割ぐらいで、残りの方が広く道民にというイメージを持っております。どちらかという行政向きというイメージがあると思います。御意見をお願いいたします。

(三石委員)

その通りの内容だなと感じました。ただですね、今おっしゃった対象の皆さんが求めているのは、こういう概要は、実は余り求めていらっしゃらないのではないかなという気はするのです。逆にもっと具体的にどうやったら良いのかということ求めているのかなと思うのです。それを動画にするのは、かなり難しい話かなと思います。

結論として何が言いたいかという、こういうまとめについては、広く道民の皆さんだとか、

普段、社会教育に関心のない方に、こういったものを届けていけば良いのかなと考えて、前回まで発言をしたところです。

このように会議が行われていることも御存じない方が圧倒的に多いと思いますし、このように会議を行って道内の社会教育を盛り上げていこうとしているというような動画で、個人的な意見になりますが、少しでも若い世代に知ってもらって、少しでも身近な施設の活用だとか、社会教育について親しんでもらうきっかけの一つになれば良いかなと思うのです。そうなってくるとお話しがほとんどになってくると思うのですけれども、まとめではありますが、少しフランクな感じといいですか、少し砕けた形でお伝えしても良いのかなと感じました。（案では）テロップと吉岡議長が登場するだけです、会議の報告であれば、会議がどのように行われていたかという映像だとか写真だとかも盛り込んでいただくと、会議の様子がより伝わるのかなという気がしました。さらにもう一つですけれども、せっかく動画を作りますので、道教委並びに関係団体のSNSのアカウントを是非活用いただいて、色んな方に届けられるよう拡散していただければ良いのではないかと思います。

（吉田課長補佐）

三石委員のイメージとしては、事業告知に近いイメージでしょうか。

（三石委員）

それも含めた感じです。

（吉岡議長兼会長）

他にこの動画に関して御意見はありませんか。

（岡部委員）

これはホームページへの掲載を考えているのでしょうか。

（吉田課長補佐）

それは後ほど説明しようと思っていたのですが、社会教育課でYouTubeチャンネルを持っています。それにアップしようと考えていました。

（岡部委員）

その登録者数は、どれ位いらっしゃるのですか。

（齋藤主事）

155人です。

（岡部委員）

きっとそれは社会教育に興味をお持ちの方が155人だと思うのです。何を言いたいかという、発信の手法というか、やり方が問われていると思うのです。道教委でLINEは持っていないのですか。

(吉田課長補佐)

持っていないです。

(岡部委員)

プッシュ型の発信はできないのかなど、この資料を拝見して思いました。どうしても見に行きたい人が見るくらいになってしまうので、もう少し幅広に、こういったことに何の興味も持っていない人たちにどうやって、まずは届けるか。もし、そのうちの何割かでも、さらに細かい本文まで見てもらう仕組みができれば、そのやり方をどうすべきかを考えるべきかなと思いました。

(白石副議長兼副会長)

現在はYouTubeチャンネル以外に何かSNSの公式アカウントみたいなものはあるのですか。

(齋藤主事)

Twitter(現X)ぐらいです。

(白石副議長兼副会長)

そのフォロワーは何人ぐらいですか。

(齋藤主事)

そこまでは把握していません。

(吉岡議長兼会長)

Twitterには、動画を作ってどんどん出しても大丈夫なのですか。

(白石副議長兼副会長)

YouTubeにアップしたものを、Twitterでシェアすることは大丈夫ではないかと思います。

(吉岡議長兼会長)

この案は、あくまでも何もないと議論が進まないのも事務局で作ってもらったものですので、三石委員が仰ったように、もっと若い人たちにも訴えることができるようなものを作ることはできるとは思うのですが、専門業者に頼んで作るような予算は用意していませんので、そこは我々委員の中で得意な人がいたら、力を発揮するというようなやり方はないわけではありません。御意見を出していただければと思います。

(田丸委員)

どこまでできるかは分かりませんが、全道各地の公民館や図書館のホームページにリンクを張ってもらうという工夫はだめなのでしょうか。何でも道教委の発信ではなくて、各地で張ってもらう形はどうでしょうか。

(吉田課長補佐)

お願いをすることはできると思います。

(吉岡議長兼会長)

他にはいかがでしょうか。オンラインの皆様はいかがですか。

(渡邊委員)

今は発信方法の議論をしていましたが、中身の方なのですが、今回、社会教育施設の調査をして、先進的な施設を何カ所か見に行きました。確かにこの資料には、視察報告のようなものが付いているので、これを見てくださいということで良いのかもしれませんが、もし、チャプター的に恵庭の公民館はこんな施設でしたとか、国立はこんな特徴でしたというように紹介すると、社会教育施設に従事されている方が、うちの施設だったら、ここを参考にしたら良いかもねということで、チャプターを見るというような仕組みでも役割は果たせるという気はするのですけれども、その時に撮った写真に解説を付けるとかは難しいですか。

正直いって、私も委員になって公民館を注目して見せていただいて、こんなことをやっているのだということが初めて分かったのです。ですから、一般の方が見る資料ということでも良いし、従事されている方はこんな工夫をしているのかと分かることでも良いと思いました。

(平田委員)

北海道PTA連合会でも動画を作ったのですけれども、基本の写真だとか、会長の動画とかはこちらで撮りましたが、他は提携している専門の業者さんに頼みました。やはりかなりのお金がかかりました。議長が仰ったように、そういう予算はないので、道教委の卓越された方が作られると思います。先ほど渡邊委員も仰られましたけれども、せっかく皆さんで行かれたので、写真の下に、例えば恵庭市島松公民館だとか、簡単な説明を付けられれば良いなと思いました。

もう一つは、これは不可能かなと思いましたが、例えば、私どものPTAも社会教育なのだ、皆さん社会教育委員ですので、それぞれが社会教育のものなのだということで、そういうことを何か資料だけでも良いのですが、何かアップできれば良いなと思ったのですが、先ほどのお話をお伺いして、まずは動画を作ってみて、社会教育に携わっている方々、広く道民の皆さんが見てくれればラッキーですし、ありがたいなと思うのですが、まず、社会教育委員の会議でこういうふうやってきて、こういうものだっていうことを、社会教育に携わっている、例えば、各市町村の社会教育課の方々というのでしょうか、そういう方々に、勉強の足しにといいですか、それを活用していただければ、私としてはPTAにも返ってくるのかなと思っています。そこまで行くのは難しいかなと思うのですが、先ほど仰ったように、私たちもホームページに北海道教育委員会とリンクを張らせていただいていますので、リンクを張って広めていくという感じかなと思いました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございます。他にございませんでしょうか。では、宮田委員、お願いいたします。

(宮田委員)

私も思ったのですけれども、今日ここに来る前に、日本生命ビルのところに、鯨の模型のレプリカがあったのですよね。それを見て、札幌市の博物館がそのレプリカを展示していたのですが、その周りに座っている人もいますのですけれども、私の他にもう1人、そこに足を止めて見ていた人がいて、私も鯨の骨のレプリカを見るのは初めてなので、すごく興味を持ったのですよね。もしかしたら、そういうものが社会教育とか生涯学習という学びに繋がるのかなと思うと、そこに行かなければいけないというよりも、通りすがりとか、落ちている学びという方が、皆にずっと入ってくるのかなと思っています。

それなので、この動画の中に入る労力をかけて、皆に知ってほしいというよりも、駅の待合室で動画が流れているとか、それこそセイコーマートで勝手にビールの動画が流れているのと同じように、社会教育の動画がシャワーと流れるとか、あとは学校関係と、もし連携がとれるのであれば、学校でお母さん方は保護者会とか参観日とかには絶対に行かなければいけないので、学校の掲示のところに、子供たちの学びもそうだけれども、保護者の学びも継続されるのですよということのアピールのために置いてもらったり、それこそ児童館にも貼ってもらったり、色んなところにそういうものがあつた方が、接続しやすいかなと思いました。それこそ、教育関係（の施設）に行かない人たちの行っている場所って、やっぱりイオンとかスーパーとか、それこそ銀行とか駅とか、そういうところを活用されるので、そういうところの目にとまるようなところに、こういうものがあつた方が、もしかしたら色んな人が気づきやすいのかなと、今話を聞いていて思いました。以上です。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございます。他にはいかがでしょうか。それでは、白石委員お願いいたします。

(白石副議長兼副会長)

今回の、この2分のものが、自治体や社会教育施設のスタッフ向けのものであるならば、せっかく作ったなら、例えば社会教育課が実施する研修会とか会議とかがたくさんあると思うのですが、オンラインで配信するものならば、トイレ休憩の時間に休憩動画として流すとか、会議が始まる前の、皆が待っている時に流すとかして、その動画は繰り返して使えると思うのですよね。そこにやっぱりQRコードがあることによって、休憩中にちょっと見てみようかなとなるので、動画はYouTubeだけではなくて、YouTubeにアップしたものを、もちろん画面共有するだけでも良いのですけれども、出せる時にどんどん出していくという使い方が良いかなと思います。

あとは、やっぱり一般の道民の方にも見ていただきたいと思うと、本当は一つではすまないのかなと思います。今回のまとめにしても、例えば社会教育施設と言われても、普通の人にはピンとこないではないですか。やっぱり1個の用途で作ったものを、皆にとというのは難しく、今回、一つだけしか作らないのなら、今回は自治体向け、社会教育関係者向けと絞って作る。若しくは、もし二つ作るというのであれば、完全に分けて、言葉遣いとかも含めて、一般向けのものと分かっている人向けのものを分けて考えなければならぬなと感じました。動画の使い道は、せっかく作るのであれば、広く見てもらうアイデアはまだまだあると思いました。

(吉岡議長兼会長)

他にはいかがでしょうか。では、杉澤委員お願いいたします。

(杉澤委員)

広報の問題ですが、まずターゲットを決めて、そこから内容と発信方法という部分が揺らいでいるのかなと思います。白石委員が仰ったように、まず自治体の社会教育関係者向けということであれば、委員の皆様のインタビュー、もちろん議長・副議長のインタビューを含めて、委員の皆様が登場して、議論の内容などを少し語り合いながら、こんな会議でしたよということを含めて、あくまで初めての試みなので、こんな会議をやって、こんなまとめでしたよと出すだけでも意義があると思います。知らない方に、そんな会議が道教委で行われているということでも、非常に意味があることだと思います。

内容のことに関しては、本当はシリーズ化した方が良いと思います。ある程度こんな社会教育施設探訪ではないですけども、そういった形で先進的な取組だとか、皆さんが採り入れてほしいような取組をしている施設・団体があれば、何かそういうところをフィーチャーしていくような、シリーズ化をしていくと、さらにYouTubeチャンネルのコンテンツも非常に強くなる気がします。

この広報も非常に難しいと思いますので、言おうかどうか迷いましたけれども、動画のお手伝いをやらせていただきます。部下に叱られるかもしれません。少し迷いました。

(田丸委員)

やれる方がいらっしゃるのであれば手伝います。

僕もまとめの報告であれば、こういう形になるかなと思ったのですが、皆さんの話を聞いてみると、かなり広報的な要素も出てきているので、それであると吉岡議長の画面がずっと2分間というのではなく、説明②のところからは、やっぱり写真が入ってきた方が良いのかなと思います。(説明①の)「報告します」までは、やっぱり吉岡議長の画面だと思っていたいて、その後はやっぱり絵が入ってきて、最後、また議長の方に戻って、ホームページを御覧くださいという形でないと、休憩時間に流すにしてもきついのではないかと思いました。ただ、ちょっとした技術が必要になるので、(手伝う方が)どなたもいらっしゃらないのだなと思いました。やれる方がいらっしゃるのであれば、そのようなイメージを持っておりました。以上です。

(三石委員)

今回、実際に動画を作るところまでできたので、それは本当に嬉しいというか、ありがたいなと思ったところです。前回の発言の中でも、今回が難しくても、次回以降にという話もさせてもらったのですが、この動画を出すことによって、きっと反響もあるかと思っています。そこで、また今度、次のステップに生かしてもらっていただければいいかなと思います。

動画を作るに当たっては、素材って凄く大事なので、それを念頭に置いた次回の会議というか、もうあらかじめ動画を作るとして会議をすると、ここでどういう映像を撮っておこうということがきっと出てくると思うのです。それなので、今回の動画については、もちろんそういうことにはならないと思うのですけれども、これを一つの足がかりとして、動画でこの皆さんの会議を、議事録もそうなのですから、多分、文書で公開して議事録を読んでもくださる方って、ごくご

く一部かなと思うので、それも動画になってくると、きっと皆さんに届けられるという気がする
ので、次回以降にさらに生かして欲しいなという意見です。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございます。他に御意見のある方は、いらっしゃいますか。よろしいですか。

今、様々な御意見を出していただきまして、嬉しいことに杉澤委員が御協力いただけること
になりましたので、今期の我々の議論を、ちょっとした写真ですとかも含めて、もう少し多くの人
に伝えていただく工夫をしていただきながら、初の試みですので、十分な映像っていう形でまと
められるかは自信のないところもありますが、できる範囲で作っていただいて、多くの方に発信
していけたらなというふうに思っております。

会議としては本日が最後ですけれども、委員としてはまだ引き続きますので、その間に、少し
工夫をして動画を作って、多くの社会教育関係の方に届ける努力をしていきたいと思ってお
ります。皆さんに御協力いただくこともあろうかと思っておりますので、よろしくお願
いしたいと思いま
す。事務局から何かありますか。

(吉田課長補佐)

今回の御意見をまとめて、こんな形でどうでしょうかとお示ししたいと思
いますので、杉澤委員、田丸委員、よろしくお願
いいたします。それで調整をさせていただいて、もしかし
たらその都度、皆さんから御指摘をいただくか
もしれませんので、よろしくお願
いしたいと思
います。

(吉岡議長兼会長)

その時には、快く引き受けていただければと思
います。その辺りを少し検討していき
たいと思
います。それでは、続きまして議題の4 その他に移
ります。(1)(2)の各項目につ
きましては、非公開と
しますので、報道機
関の方は御退席を
お願
いしたいと思
います。ありがとうございます
ました。

それでは、(1)令和6年度社会教育関係団体補助金について、事務局から説明をお願
いいた
します。

※議題4 その他(1)令和6年度社会教育関係団体補助金について、(2)文部科学大臣
表彰選考についての議事非公開のため省略

(吉岡議長兼会長)

ただ今の説明に、御意見・御質問等はござ
いますでしょうか。よろしいですか。では、こ
ちら
で進めさせていただきます。ありがとうございます。それでは(3)その他
ですね、事務局から説明をお願
いいた
します。

(吉田課長補佐)

若干、事務的な連絡になるかと思うの
ですが、まとめにつ
きましては、先ほど、御意見を
いた
だきましたので、修正し
まして、議長、副議長に御確認
いた
だいた上で完成版とし
まして、委員
の皆様
に改めてお送りさせていただきます。

動画については、御協力いただける委員の方々がいらっしゃいましたので、また少し調整しまして、連絡させていただきたいと思います。

それから、本日の議事録ですが、まとめ次第お送りしますので、御確認いただきたいと思います。議事録の修正案につきましては、対面の会議はございませんので、書面会議で確定させていただきたいと思いますが、この点についてはいかがでしょうか。

(委員から異議なしの声あり)

よろしいですか。それからもう1点、先ほど追加でお配りしました生涯学習推進センターからのお知らせです。令和5年度地域生涯学習活動実践交流セミナーの開催要項をお配りさせていただきましたが、2月の21日、22日で開催されます。もし、よろしければ、御興味のある方がいらっしゃれば、参加いただきたいと思います。実はべ切が明日になっていますが、その辺は若干遅れても対応してくださるということでしたので、もしよろしければ、申し込みいただければと思います。事務局の方からは以上です。

(吉岡議長兼会長)

はい。ありがとうございます。それでは今回の議事録については、書面会議で確定をお願いしたいと思います。

それでは2年間の審議は本日で終了となりますので、最後に委員の皆様から、一言ずつ御感想、御提言等々をお願いしたいと思います。まだ、時間がございますので、3～4分、思う存分、語っていただきたいと思います。

そうしましたら名簿順で上から順番に御指名させていただきますので、よろしくをお願いします。それではまず一番上の近江委員は御欠席ですので、大原委員からお願いしたいと思います。よろしくをお願いいたします。

(大原委員)

日程がとれず、全部オンラインでの参加となり、なかなか議論に参加できなかったところはあります。

今、僕は御縁があって、道北の和寒町という町で仕事をしているのですが、特別養護老人ホームという福祉施設の建て替えをきっかけに、今3千人の町が、恐らく半減してしまうという、非常に危機的な人口減少にある自治体なのですが、そういった施設を立ち上げることをきっかけとして、福祉だけでなくまちづくり全体をしっかりとデザインしていきましょうというようなプロジェクトを進めているのです。やっぱりその中でも、議題、アジェンダになってくるのは、図書館のあり方というところで、とても立派な図書館なのですが、年々利用される方が減ってきており、そもそも図書館という機能そのものを、構造的に見直す必要があるのではないかと、そういう議論を今しています。和寒の町の方々は非常に柔軟なので、例えば、図書館を保育園に一部変えても良いのではないかとか、あえて賑やかに子どもが遊べる場所にしても良いのではないかとか、今までのあるべき図書館の姿みたいなことの固定概念を捨てて、今、町の中で必要とされる、何かスクラップアンドビルドではなくて、いわゆるリストラクチャーですね、再構築していこうという議論が、エコシステムとともに、これから地方自治体では問われるのではないかと痛感しているところです。

その中で、委員の皆様のご視察等を含めて、なかなか行政の会議で、ここまで足繁く、色々など

ころに通いながら、プロセスを踏んでまとめるというところに、僕はなかなか参画できませんでしたが、非常に熱心な、この審議会の一員として関わられたことを大変光栄に思いますし、地元地元で、やれることの、もし、足かせとなった時に、この審議会での議論や北海道教育委員会の後押しがあると、ますます、それぞれの自治体がオリジナリティを持って進められるのではないかなというふうに感じています。

なかなか参加できず、大変御迷惑をおかけしてしまいましたが、2年間、大変お世話になりました。大変、勉強になりました。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございました。続きまして、岡部委員、お願いいたします。

(岡部委員)

それでは、改めまして、私も2年間、もっと言うとその前もやっておりましたので、4年間、この会議にお世話になって、色々と学ばせていただいたなと思っております。

地元で、教育長をやっているものですから、時折、公演・講話を頼まれることがあって、そのほとんどが学校教育に関するお話のオファーを受けるのですが、そうではなく自由に話してくださいという時には、努めて社会教育なり生涯学習に関する話しをするようにしています。いつも何を言うかという、地域課題の解決に繋がるような、そういう社会教育、生涯学習でありたいなというお話をさせていただいて、具体的に言わないと、皆さんに余り伝わらないものですから、こういう例え話をします。公民館やそういったところで、カラオケサークルで歌っていますということは、立派な生涯学習だと思うのですが、ただ、そのサークルで、今度、高齢者福祉施設に慰問に出向いて、そこで懐メロを入所者に歌ってあげる、そうすると、それは、まちづくりというか、申し上げた地域課題の解決に繋がる学びなのかなと思ったりします。今度、ハワイに行くので英語を勉強しますというのも生涯学習ですが、これは個の話なのです。それなので、釧路の話で言うと、大型客船、クルーズ船というのが、定期的に入って参りますので、今度せっかく学んだ英語でボランティアの通訳をやろうという話になったら、これもまた地域課題の解決に資する取組になっていくというようなことを、お話をさせていただいているものですから、さっきちょっと言い忘れたのですが、動画等を通して、この報告書が、世に今まで以上に伝わっていくとしたら、ぜひ、これを読まれた方の声のようなものを吸い上げるような、そんな仕組みも先ほどの動画をさらに検討していく中で、加えていただければと思っております。

改めて2年間、皆さんから勉強させていただいたことに感謝申し上げて、私の話とさせていただきます。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

続きまして、轡田委員、お願いいたします。

(轡田委員)

私は、今回初めて皆様とともに会議に出席させていただきました。途中、参加できない会議もありまして、その間に本当に知らないうちにまとめができあがっていることに、ここに加わらせていただいた一人として、本当に学びになったと思いました。

社会教育委員長としてやっておりますけれども、最初に私が入りました時には、社会教育委員の会議のみで終わってしまうということだったのですが、委員さんだけでも集まって何かできないかなと考えておりました。市の教育長にもお話ししましたが、少しずつですが自分たちで自主研修を始めました。それから横文字がたくさん会議に出て参りますけれども、ある委員から横文字が分からないから勉強したいとのことで自主研修をいたしました。また、市内にある社会教育施設をはじめ、委員が訪ねたことのない施設への視察を生涯学習・スポーツ課の職員とともに研修し、繋がりができました。今回の能登半島地震で被災された方々に、自分たちは行けなけれど、何かできることはないかと考え、必要とする品を集めて荷物を発送したいと考えています。それは小さなことなのですが、社会教育委員として、あらねばならぬということよりも、今、生きている空間の中で、自分たちはどんなことができるのかということ、ここで教わりました。つどい、学びというようなことが、今後、自分の中で発信していければ本当に良い会議に参加させていただいたなと思っております。

そして、動画を発信されると聞きましたので、凄く私としては楽しみです、たまたまですが主人が教育委員をやっております、学校教育と社会教育のことについて、時々話をする機会があるのです。なかなか、社会教育委員になっていながら、学校教育の中について行かれない、CSの会議なんかにも出ていますが、どうやって一緒にやっていけるのかということ、自問自答していますけれども、この会議に参加させていただいたことに私としては、良かったな、これからの自分の人生の一日一日の生活の糧ができたなと考えております。本当に皆さん、ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございます。白石副議長、お願いいたします。

(白石副議長兼副会長)

私もこの会議に社会教育委員としては3期、6年目なのですが、毎回テーマが与えられ、それについて自分たちで現地に見に行き、皆さんが見たものについて話す時にも、自分は社会教育の民間の立場ですけれども、民間の方、あとは公の方とか、あとは社会教育の方、学校教育の方、福祉の方、色々の方の視点、観点を持ち寄って話していく中で、自分には見えなかったものとか、知らなかったこととかを知ることができて、自分の実際の生活や仕事に深みが増したというか、勉強することばかりでした。

私自身も、時々、他の場で、皆さんの前でお話をする場があります。先日もジェンダーギャップ、男女格差についてのシンポジウムがあって、そこでお話した時に、何かそういうアプローチとして何か(ありますか)と言われた時に、私は、この社会教育というものが、年齢とか男女とか背景に関係なく、皆さんが話し合うことができるという、それはこの会議の場だけではなくて、どの社会教育、生涯学習の場であっても、関係性がフラットであることが、凄く自分にとっては心地よくて、そういうことが、男女のジェンダーギャップのアプローチの一つになるのではないかなということで、コミュニティにおいて、関係性がフラットであるとか、あと皆さんが、一方が理解される側、理解する側だとか、施す、施されるのではなくて、相互にコミュニティに対して貢献し合っているというお話をしたのですが、自分がある社会教育ではない方は、そういう考え方があるのですねと、それに驚かれていました。私は当たり前だと思っていたので、勉強になり

ましたと言われて、そうと思いました。だから、自分たちが、今、居心地がいいと思っている、これについては、社会教育という場だけではなく、本当に地域社会全体に広がればいいと思っています。やっぱりビジネスだけをされている方にしてみれば、ビジネスはお金もうけであってとか、どちらか一方が強い立場であるということが多いので、自分のような考え方じゃない方もたくさんいらっしゃったのです。当たり前だと思ってることは、実はそんなに当たり前ではないのかもしれないと新たに思いました。

先日、私は、旅行で岐阜県に行ったのです。岐阜県で友達がたまたま岐阜市の中央図書館に連れて行って来てくれて、その図書館は2階にあって、下には公のスペースがあるのです。20時までには図書館が開いていて、下は21時まで開いているのですけれども、そこは市民活動の情報が集約される凄い長い棚があるのです。そこに行くと、市民活動であるとか図書館とかNPOだとかの色々なもののチラシが凄く置いてあって、その奥には外国籍の方たちのための支援の窓口があって、さらにそこでは中国語、英語、ベトナム語、日本語のパンフレットがあります。貸部屋もあって、市民活動もされていて、フリースペースでは高校生が夜遅くまで勉強していて、ローソンもスターバックスもあるというような凄い建物だったのです。私は、凄く興奮したのですよね。友達には、興奮が伝わらなくて、なんで興奮しているのという感じだったのです。やっぱりこの仕事をするようになって、この会議に参加するようになって、そういうところが気になるようになって、それも自分では良かったなと思うのです。これはもしかしたら、外国籍の方の窓口と図書館とが一緒にあるということは、これは大事なことだと思ったのですよね。外国籍の友達が、帯広で行くところがなくて、いつも図書館に行くと言っていたのですよね。だとしたら、帯広図書館にも、そういう窓口があったらもっと便利なのだから、そういうふうに普段から考えるようになったのは、この委員になったお陰かなと思っています。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

続きまして杉澤委員、お願いいたします。

(杉澤委員)

第1回、第2回と残念ながら出席できませんで、皆様の熱い議事録を拝見するたびに、なぜ私はそこにいなかったのだろうと、非常に^{じくじ}忸怩たる思いでいました。

話は戻りますが、私は和寒出身でありますので、(大原委員)和寒をよろしくお願いいたします。

さて、私は社会教育委員をさせていただいて、地域メディアでラジオ局をやっているのですけれども、今、思うことは、実は私のラジオ局も社会教育施設だと凄く感じています。150人の一般の方が放送をやっています。もう色々な世代、色々な価値が、もちろんLGBTQや障害を持った方やお年寄りや小学生や、色々な人たちがしゃべって、情報を伝えてくれているのです。本当にまた一つ夢が増えまして、公民館のような放送局にしたいなという、そんな壮大な夢も今持ちつつ、そんな夢を持ちながら続けていきたいと思っています。

このすばらしいまとめを見て、目次を見て、中を見て、お正月に読みながら感じたのは、本当にこれだけの多様な選択肢を、メニューを、もう当たり前なのでしょうけれども、これだけのメニューを、例えば40年前、50年前だと、それを取り残された人たちがいたかもしれないので

すが、この時代にこれだけのメニューを提示して、様々な人たちが社会教育・生涯学習ができるということは、もの凄く大切なことなのですから、それだけ選択肢が増えるし、選択肢を切り捨てない時代なのだと感じました。その選択肢を維持し、機能を維持していくためには、もの凄くもちろん公的な機関や、地域の皆様たちの維持管理ということが、とても大変になってくるので、それこそが持続可能な地域社会というのでしょうか、その選択肢をしっかりキープしていくということが、我々、人口がどんどん減って行く中で、これから大事な私たちのタスクになるのだらうなと思いながら、この非常に多様な選択肢のまとめ案を拝見しながら、そんなことを感じました。

東神楽にも行きましたし、国立の公民館を拝見して、本当に知らないことをたくさん教えていただいて、社会教育の会議が、色々なヒントを私にくれました。また、そういった意識を持ちながら、地域活動を進めていきたいと思いました。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

続いて、田丸委員、お願いいたします。

(田丸委員)

2年間ありがとうございます。

私は、中学校の校長という立場なのですが、施設ということで、二つほどお話をさせていただきたいと思うのです。

管理職になる前は、学校教育の後に社会教育があるのかなと思っていたのですが、管理職になって、社会教育の中に学校教育があるのだなというふうに考え方が変わってきて、北海道はもう8割ぐらいでCSの取組が進んでいるのですが、札幌市は、余り進んでおりませんで、来年度から本格的にということで、うちの学校も来年度から導入していくのですが、そういうこともあって、本当に社会教育の中の学校教育だと思っていたおりました。

一つ目ですが、実はうちの学校では、放課後の学習会というものを、地域の方に運営してもらってやっています。すぐ隣に小学校があるので、小学生を招いてやりたいと考えた時に、小学生が中学校に来るよりは、間にある児童会館とかを使った方が良いのではないかなと、今、考えておまして、児童会館というのは、やっぱり保護者にとっては学校と同じように、安全で安心できる、まとめにもありますが、信頼できる場所だな、そういう活用もできるのだなと気づいた時に、社会教育施設の重要性を凄く再確認できたところでもあります。それが一つ目です。

二つ目なのですが、小中連携といって、小学校・中学校が最近一緒になって色々な学校教育を行っていくのですが、小学校と中学校の先生方が集まる会議というのは、どちらかという学校に集まってやるが多かったのです。最近、こういった街中の、もちろん「かでる」もそうですし、いろんな施設を使って、昔は施設にお金をかけるのがどうかというところがあったのですが、そうではなく、働き方改革のこともあるのですが、そういうところの施設を使って、会議を効率よくやっつけよう（としています）。これもオンライン会議が普及したから僕らも会議の効率化を考えられるようになったのですが、そうやって見てみると、札幌市は本当にそういった施設が多いのですが、地方では本当に少なく、地方におけるこういう公的な施設の重要性だとか、それから札幌の中でも私は手稲西中学校なのですが、あちらの方に行くと、若干そういう施設がなくて、こういう施設を有効利用し、僕らがそこで話し合っ

色々なことを発信していくことも、社会教育の繋がりになるのだろうと思いました。そういう意味では、先ほどのまとめの一文にあったところですね、あそこに本当に僕は色々と考えさせていただきました。学びの多い2年間でした。どうもありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

続きまして、平田委員、お願いいたします。

(平田委員)

縁があってPTAの方に関わらせていただきまして、そのお陰でこちらの会議にもお世話になることになり、本当に勉強になりました。ありがとうございました。

今、地震もそうですし、世界情勢とか戦争とか、社会情勢が厳しい中で、ちょっと落ち込むことがいっぱい。どちらかという、悲しいことがいっぱいあると思うのですけれども、この会議に来て、皆さん方の本当に前向きな姿勢だとか、それから私どものことですが、10月にPTAの全道大会を札幌でやらせていただいたのですけれども、コロナ明けで久々の通常開催をやらせていただいて、本当に前向きな方々の行動とか意見とかを聞くと、このままではいけないと自分自身も反省したりすることもいっぱいございました。

自分が現役の頃、日々の校長や教頭の業務でいっぱいいっぱいになっている時に、教育長様が「社会教育が大事なんだよ」とポロッと言われたことがあって、その時には「何を言っているの、それどころではないよ」と思ったのですが、今、思えば、やはり先ほども仰られたように、社会教育と繋がるというよりも、社会教育の中に学校教育もあるし、重なるものもあったり、違う目的の部分もあったりということで、自分は、PTA活動は子どもたちの幸せのためにということを中心に、いつも考えて、そこでいつも踏ん張っているのですけれども、本当に前向きな皆さんの御意見をお聞きできて、勉強になったということで、私自身は大した意見を言えずに、事務局の皆さんにも御迷惑をおかけして申し訳ない限りなのですが、お世話になりました。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございました。続きまして、松井委員、お願いできますでしょうか。

(松井委員)

一度もそちらに伺うことができず、今日も急遽オンラインとなり、大変失礼をいたしました。

私自身もこの会議に委員として参加させていただいて、とても有意義な学びをさせていただいたと思っております。本当にありがとうございました。

私は、札幌の公立の幼稚園に所属しておりますけれども、少子化ということもあり、子どもの数が札幌でも減ってきています。そんな中、園だけで何かをすることには限界があるなど思っております。子どもたちを育てていくためには、園を開いて、地域社会と繋がっていくということがとても大事で、その中で子どもたちを育てていくことがとても大事だと考えており、社会教育施設をどのように活用して、そこで出会う人たちと、どう子どもたちが関わっていくかということが非常に重要だなど思っていた時に、この会議で色々な可能性を知ることができて、本当にありがたいなと思っています。

私の所属している北海道国公立幼稚園・こども園長会は、全道の公立の幼稚園、認定こども園の会なのですけれども、年々園が減ってきています。札幌以外の地域では、地域との繋がりも強いところもあります。先ほど、お話にも出ましたが、札幌はCSがこれからということで、私どもの地域でも来年度から小中と繋がっていきますが、やはり子どもたちを育てていくためには、色々な人の力をお借りして、育んでいく必要があると思っておりますし、特に幼児教育施設は、私立の園が札幌などは非常に多く、公私の枠を超えた関わりで、地域で子どもたちを育てていくということが非常に重要だと思えます。その中でこういう施設を活用していくということを、今後も私も色々ところで発信していきたいと思っております。子どもたちは、やはり色々な人と関わっていくことで、とにかく豊かになっていくと思っておりますので、私自身、これからも自分のテーマとしていきたいなと思っております。

先ほど複合施設の話が出ましたが、やはり急に施設を改革していくことは、難しいと思っておりますので、施設が複合にならなくても、それぞれの施設がどう繋がっていくかということが大事なのだなと感じているところです。

今回、このように審議のまとめを作成していただきましたけれども、記していただいた内容を受けて、道民がどう次を作っていくか、自分たちでどう進めていくかが大事なかなと思っておりますので、私自身も含めて、これを受け取って、また今後も考え続けていきたいなと思っております。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございました。三石委員、お願いいたします。

(三石委員)

私自身は、指定管理者という立場ではありますけれども、社会教育施設の職員として日頃勤務しております。

そういった中で、今回の審議のテーマについては、非常に関心の高いものでありまして、毎回、会議で、皆さんのお話というのは、全てが、本当に日頃の業務にも生かれますし、自分の考え方に新たな気づきを得ることができまして、本当に委員の皆さんに感謝申し上げたいと思っております。

これから、自分の施設もそうなのですけれども、社会教育施設がどうあるべきなのかということ考えた時に、使ってもらおうということもそうなのですけれども、地域の皆さんに自分たちの施設だという気持ちを少しでも持っていただいて、一緒に、その施設を活用できるような方向を考えていけたら良いのかなと、今のところは考えております。そのためには、普段、一瞬でも立ち寄っていただいた皆さんに、少しでも関心を持ってもらえるような方法を考えていきたいなと、考えているところです。

こういった業務の中で、私自身は、小中学生を対象としたジュニアジャズスクールというものを施設で開設しておりまして、その事務局を担っているのですけれども、参加する子どもたちというのは幕別町内に限らず近隣の市町村からも来るのですが、子どもたちの様子を見てみると、日頃の学校では出していない表情を、そのスクールの中では出しているように感じます。そういったことができるのが、社会教育の強みなのかなと感じておりまして、子どもたちも、もちろんそうですし、そこに集う保護者の皆さんもそこで交流ができて、新たな輪が広がっていることを

見ると、社会教育というのはやっぱり武器だなと感じることが多々あります。

ここに参加し始めた頃は、まだ社会教育事業でも、若い世代の参加率が低いという課題を持っていたのですが、最近は編み物という一つのテーマで集う、皆さんがいらっしゃって、そこで会話が弾んでいたりだとか、楽しい時間を過ごしているということが、本当に嬉しく感じているところです。

そういったことで、ニュースだとか映像だとかも、間接的なものだと、人の関係性というのは、色々な人がいるという理解はもちろんできるのでしょうけれども、多分、そこって、上に見たりだとか下に見たりだとか、フラットな関係ではなく色々な関係の人がいるよねという感覚があると思うのです。けれども、実際に対面でお話する中では、こういうことがあってこういう人もいるのだねということが、少し身近に感じられたり、フラットな関係でこういう人もいるよねということが感じられることは、やっぱりそういう対面で集うことの大事さも感じているところです。

余りこの場で昨日のことをお話するのはどうかなと思ったのですが、やっぱり自己肯定感を上げると言うことは、生きていく上できっと大事になってくると思うので、日頃の仕事や学校で上手くいかなかったり、違う場所で、それが社会教育施設であると嬉しいのですけれども、楽しいと思えることがあると。極端な言い方ですけども、自ら命を絶ってしまうようなことがないこと、セーフティネットとしても、社会教育が貢献できたら良いのかなと感じています。

この2年間、委員の会議と審議会に携わらせていただきまして、本当に皆様に感謝しております。ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございました。続きまして宮田委員、お願いいたします。

(宮田委員)

この2年間本当にありがとうございました。私自身、この2年間で本当に人生が変わるぐらい、仕事を転職したり、大事な人を亡くしたりという、人生において大きな経験があったのですが、この2年間で障害がある方の生涯学習ということ、仕事としてさせていただいたり、社会教育委員として、もう少し広い視野を持って、色々な人たちのことを考えたり、また、児童館で、今、子どもたちが抱えている生きづらさ、母子家庭とか子育てサロンに子どもを連れてくるお母さん方の思いとか、色々なものを社会教育という視点から学ばせてもらいました。

児童館では本当に胸が詰まる思いというか、信頼関係が持てないと子どもたちは本当のことを言わないので、信頼関係ができてから発する言葉ですとか。あとは、紙飛行機を作った時に飛ばしては駄目なのですよね。紙飛行機を飛ばすと人に当たって危ないからという理由で飛ばしては駄目なのですけれども、その遊びの発展とか、何か生まれたものを抑制しなければいけないということの辛さだったり、子育てサロンに子どもを連れてきて、お母さんが震えながら車の運転が怖かったのだとか、双子を抱えながら、連れてきた時も、やっぱり家にいるより良い、ここに来て伸び伸びと子どもを遊ばせて、自分も色々な人と会話ができるのが本当に楽しいということ、仰っていたりとかします。

また、障害がある方は障害がある方で、やっぱり雪が降ると車椅子が大変、病院に行くのが大変、コロナが怖い、色々なものを抱えていらっしゃって、そうかと思えば職員の中でも、健常だけれども、役職もあるけれども、やっぱり仕事が辛い、心が辛い、孤独を感じる、どうしていつ

たらしい、様々なものをみんな抱えて生きているなということ、私自身凄く感じる事が多くて、私自身も凄い辛さを感じる事とかがあったのですけれども、今回、社会教育というものを学ばせてもらって、関わらせてもらったことで、視野が広がったり、若しくはこういう逃げ口があるのではないか、こういうふうに物事を考えた方が良くはないか、こういう経験をしている人がいるから、私もそこに寄り添ってみようかなという、色々なものを見られるという経験をさせてもらいました。

それなので、本当にこの2年間というのは、もう人生において大きな経験だったなと思っています。今後、私もどういう道に進むかは、ちょっと分からないのですけれども、今後もまた、社会教育に関わったら嬉しいなと思うとともに、多分、人生でつまずいてきた人にとって、これはもしかしたら、生きる道筋の一つになるのではないかなと思っています。

この作ったものが、皆さんに、色々な人に届くことを私は祈っています。本当に、この2年間ありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございました。続きまして、遊佐委員、お願いいたします。

(遊佐委員)

まず、2年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

社会教育の現場で、第一線で活躍される皆さんの会議を通した色々な御意見、考え方などに直に触れることができ、また、私自身にとっても新しい知見や、刺激を受けました。毎回会議に参加させていただき、議事録を終わってから読ませていただいて、非常に学ぶことも多く、有意義な役回りで勉強させていただけたと思っております。ありがとうございました。

今日の委員会の中で、資料14ページの社会教育と学校教育の連携を推進するというところで、先ほど少し議論になりましたけれども、今日たまたま北海道新聞の朝刊を拝見していましたら、札幌市立大通高校が紹介されていて、先ほどチャットでPDF化したものをお送りしましたが、記事のタイトルに「外部人材と積極的に連携」ということで、「社会に近い、開かれた学校」という記事がありました。なかなか言葉で端的に表現することは難しいと思いますが、小・中・高、色々な形態の学校で、地域をもっと学びましょうということが、広く行われてきていると思いますので、学校教育の中から生涯学習的な地域を見つめるような取組もあります。今、総合学習や色々な課題解決をもくろむような授業の中で、地域に入って行くようなこともあると思います。逆に、社会教育施設からも来てくれるのを待つばかりではなくて、来てもらうような仕掛けをすとか、誘い込むようなことをすとか、出前授業は人のやりくりでできる範囲があると思いますが、色々なアプローチができるのではないかなというふうに、今日の資料を見て、そう感じていました。学校教育と社会教育が相互に行き来できるような関わりの中で、名実ともに連携が形になっていくのではないかなと思います。それができたところで、今日の資料5ページのところに、主な要因ということで、「施設の利用者は全体的に減少、固定化が進んでいる」ことのいくつか項目が挙げられていますが、関心を高めてもらって施設を利用してもらえということで、下支えになっていくのではないかなと思います。

私は、以前ホテルに勤務をしていた際、顧客と呼ばれる、今いるお客様はもちろん大事なのですが、目の前のお客様も段々年代が上がっていくので、次の顧客を常に作り続けるということ、

企画的なことをやっていた時に、考えて取り組んでいました。そのため、終わりが無いというか、次々に新しい価値を作って発信していく、今のお客様だけでなく、次にお客様になる次世代づくりも常に並行してやっていくことが、民間にいた時の話ですけれども、非常に重要と思います。社会教育の分野でも、色々なすばらしい施設がありますし、この公民館、博物館、図書館で、こんなこともできちゃいますというようなことが、実はもっとももっとたくさんあるのではないかなと思います。実際、自分が持ち込みで図書館に協力してもらって、イベントを実施していただいたことも過去に経験もあります。もっと市民に広く深く愛されて、こよなく足繁く通ってもらえるような施設づくりと、自分たちの大切な施設なんだ、こんなこともできるんだということを、今後も発信されると良いと思いました。委員の皆さんの色々な御意見を聞いて、非常に参考になり、勉強になる機会を、この2年間得られましたので、本当にどうもありがとうございます。

(吉岡議長兼会長)

ありがとうございました。それでは、渡邊委員お願いしたいと思います。

(渡邊委員)

まずは、2年間本当にありがとうございました。お世話になりました。

私は、今振り返ると、自分が小学校に入学して以降、ずっと学校という場で過ごしてきました。教職に38年携わりましたので、本当に人生の大半を学校という場で過ごしてきて、学校教育ということについては、ある程度分かっていたのですけれども、社会教育ということは、なかなか分かっていなかったなというのが、率直な感想です。

先ほど、どなたかが仰っていたのですけれども、本当に先行き不透明な時代で、子どもたちに、今、教えた知識が、生涯にわたって正しいかどうかということは、誰も保障できないと思うのですよね。だから、子どもたちは、やっぱり自ら学びに行くという力をつけないと、その先の社会で生きていけないと、私は思っています。学校は、ある意味、18歳で終わりだとか、大学に行くのだと22歳とか、人生の最初のところだけで終わっちゃって、それ以降、自分がどうやって学んでいくのかというベースを作ってあげるのが、学校教育だと最近思っているのです。けれども、なかなか、今の子どもたちは難しいというか、本当に、勉強も受験対策が勉強だと思っていて、大学に入ったら学ばないとか、色々なことが起こっているのです。それで、今、学習指導要領が変わって探究という、探究推進ということが入ってきて、自分の学校でも、地域に学びに行くとか、地域課題に何があるのかということを自分たちで探って、そして、その課題解決のために、どうしたらいいのかという、それを発信するところまで、今やらせております。そういう活動を通して、少しでも自分たちが住んでいる地域のことを、理解して学び、そしてそこに貢献していく、そういう力をつけさせたいなと思っているところです。

少し話は変わりますが、議論していく中で、不登校の話が出た時に、私は、最終的にはやっぱり学校復帰があるべきだと、ずっと思ってきたのです。でも、議論の中で、必ずしもそうだろうかという話があって、その後もしばらく考えていて、確かにそうだなって、子どもたちが、ウェルビーイングな生き方ができるのであれば、別に学校にこだわる必要はなくて、学校じゃない学びの場があって、そこで自分に必要な知識なり、スキルを身に付けていければ、それはそれで良いのだろうなということが、今回の社会教育委員の中で私自身が一番学んだことです。今更という感じではありますけれども、そういう意味で、これも私にとっては生涯学習だったなと、

正直、思っています。色々な貴重な機会を与えていただきましたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

(吉岡議長兼会長)

それでは最後に私も一言申し上げます。

今、委員の皆様一言ずついただきましたけれども、この場が本当に学びの場になっていたのだということが分かりました。私自身も学びの場になっておりましたので、凄く嬉しい気持ちでおります。皆さんの御発言、お考えに刺激を受けて、今、渡邊委員が仰ったとおり、色々な新しい考え方や捉え方を獲得することができたと思います。

今期は、社会教育施設の果たすべき役割ということで議論してきました。私は、人が直接会って話すことがとても大事だと思っております。コロナ禍を経験して、ますますその思いを強くなりました。そう考えるとその「場」というのは、色々な時代に合わせた形はあると思うのですが、公民館、図書館など様々な形はあると思うのですが、その「場」はもの凄く必要だと思えます。そこをある種の経済効率だけで、いらないですとか、もう建て替えは行わないというような判断はよろしくないという強い思いがあり、そうした思いで議論してきたところがございます。

今回、全ての人をとということも大切にしてきましたので、障がいがある方の生涯学習も、重要な柱に置きながら議論ができました。北海道においても障がいがあってもなくても、子どもから高齢者まで、皆が集って話し合っ、良い街を作っていこうという、そういう場が、しっかりと保障されるような、社会教育施設がそういった公共性があるものだということ、広く道民の方、多くの方に知ってもらいたいという思いがありました。今回のまとめが、その一つの役割を果たしてくれるのではないかと期待しているところです。

今期のテーマでは、デジタル社会についても大きな柱として議論しました。北海道は広いので、デジタル化が進むことで可能性があるな、学びの広がりがあるなと思っております。一方、毎日の報道を見ると、デジタルで、SNSを利用して、情報を共有したり、自分の思いを発信することには凄く有効なのですが、そこでお互いが話し合っ、着地点を見つけるですとか、折り合いを付けるということに関しては、デジタルは限界があるといえます。SNSでもやり取りをきっかけにして命を絶ってしまうということが実際に起こっている現実、何とかしていかなければならないと思えます。そうしたことを考えると、やはり人が会って、話し合っ、それでお互いの思いを知って、気持ちを知って、そして折り合いをつけながら、人と一緒に生きていくという、こういう経験をどんどん積んでいかなければならないと思えます。学校時代は学校があるからいいけれども、それが終わった後の我々の世代も、やっぱり出会う場がどうしても欲しいのです。そういう意味では、社会教育施設というものの役割への認識が高まって欲しいという思いで議論が進んだと思えますし、とりまとめができたのではないかと思います。

今回、皆さん方に出会うことができ、本当に私にとって財産になりましたので、この先も末永くつながりが続いてほしいと思っております。本当に2年間どうもありがとうございました。

(吉田課長補佐)

吉岡議長、委員の皆さん、ありがとうございました。これで2年間にわたる審議は終わります

が、閉会に当たりまして、当課課長の伊藤直人より御挨拶申し上げます。

(伊藤課長)

委員の皆様、2年間本当にありがとうございました。オンラインの方もいらっしゃいますので、失礼して着席して挨拶をさせていただきます。

令和5年度第3回北海道社会教育委員の会議の閉会に当たりまして、一言、御挨拶申し上げます。

これまで、委員の皆様には様々な御議論をいただきまして、おかげさまで、北海道の社会教育施設が果たすべき役割につきまして、一部、修正の方はございましたが、しっかりと審議をまとめることができました。本当にありがとうございました。

また、審議をまとめるだけでなく、発信する手法につきましても、様々な御意見をいただきましたことに重ねてお礼申し上げます。

冒頭、村上から本道の人口減少の話がありましたが、地域における防災や福祉などの地域課題を解決するためには、地域コミュニティの維持が必要であり、その基盤となる社会教育・生涯学習の重要性は高まっておるところでございます。

この度のまとめが、社会教育の拠点である社会教育施設の機能強化につながり、全ての人の可能性を引き出し、ウェルビーイングを実現する社会教育・生涯学習に資することを祈念しております。

委員の皆様におかれましては、昨年度から6回の会議、4回の現地調査に御協力をいただき、多様な御意見、御提言をいただきましたことに深く感謝申し上げますとともに、今後とも、本道の社会教育・生涯学習の推進にお力添えくださいますよう、お願い申し上げ、閉会に当たっての挨拶といたします。2年間本当にありがとうございました。

(吉田課長補佐)

それでは、会議としては本日が最終となりますが、皆さんの任期は7月31日までとなっております。先ほどありましたけれども、動画作成、それからまとめ等で御相談申し上げることがありましたら、よろしくお願ひしたいと思います。以上で閉会といたします。2年間、どうもありがとうございました。